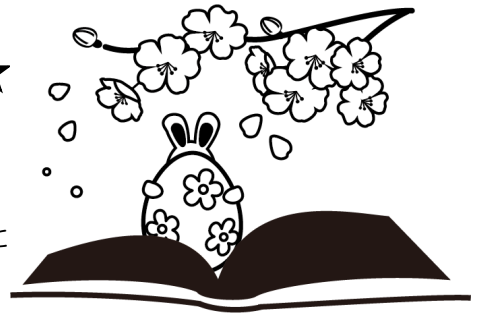


# ☆☆図書室だより☆☆ ☆第45号☆

## ☆☆- 図書委員会よりお知らせ -☆☆



復活節を迎え、旅立ちや出会いのある年度がわりに、おすすめしたい本と併せて新しく買った本の紹介をさせていただきます。

### ご紹介



阿佐ヶ谷教会 主任牧師 古屋治雄

### 「新約聖書入門」

三浦綾子 著 光文社文庫 [橙 193.5 Mi]

日曜求道者会で表題のテキストを学んでいます。主イエスの復活について、改めてこの入門書を推薦致します。

著者は四つの福音書をそれぞれ紹介した後、共通して伝えられている「イエスの十字架」と「イエスの死と復活」という項目を立てて復活の出来事に迫っています。三浦さんがまだクリスチャンになる前旭川の日赤病院で入院生活をしている時、牧師を呼んで病棟で聖書を読んでいた時の経験が伝えられています。そのような中で主イエスを裏切ってしまった弟子たちの変化に打たれ、ある人が「ぼくは、その後の弟子たちの働きを見ると、イエスの復活を信じることができる」との感想を聞き、三浦さんも後になって「私が今復活を信ずるのも、この人の言うごとく、使徒行伝における使徒たちの別人のような生き方を見るからである」と記しています。

主イエスの復活は、私たちに躓きをもたらすのではなく、新しく生きる力を注いでくださっています。



### 「キリストは甦られた 20世紀レント・イースター名説教集」

R.ランダウ 編 野崎卓道 訳 教文館 [緑 198.34 La]

私たちは、イースターを喜びの日としてお祝いします。十字架はイエス様の「身代わりによる審判」であり、そのことによって私たちの罪の赦しと神様との和解が実現し、神の国への道が備えられました。そして主の復活は歴史を超えた出来事であり、キリスト教信仰の要であります。この書は、20世紀のドイツ語圏を代表する牧師や神学者たちの受難と復活に関する説教が収録されています。それぞれが、福音の本質である主の十字架の死と復活の出来事について説かれています。イースターを機に、目に留まった説教から読み進められてはいかがでしょうか。

ペトロに「私はあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。だから、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」とおっしゃったように、主は罪に塗れた私たちを全き愛をもって包み、用いてくださいます。読み進めると、そのことに気づかされる書です。

( K.K 神学生 )

| 《ご寄贈書》  | 書名                                  | 著者名・出版社・発行年など  |
|---------|-------------------------------------|--|
|         | <b>神の民の解放 出エジプト記1～18章による説教</b>      | 松本敏之 著 キリスト新聞社 2023.11.24 [緑 194 Ma]                   |
| カナダ合同教会 | <b>日本での百年 カナダ・メソジストの歩み [明治・大正編]</b> | グウェン・R.P. ノルマン 著 教文館 2023.12.20 [茶 198.7 No]<br>後藤哲夫 訳 |
| 《購入書》   | 書名                                  | 著者名・出版社・発行年など  |
|         | <b>疑いながら信じてる50 新型キリスト教入門その1</b>     | 富田正樹 著 ヨベル 2023.11.21 [赤 190.4 To 1]                   |
|         | <b>聖書 聖書協会共同訳 発行記念講演集</b>           | 日本聖書協会 2019.6.15 [橙 193.04 Ni]                         |



## 「カナダ合同教会 日本での百年 カナダ・メソジストの歩み [明治・大正編]」

グウェン・R.P.ノルマン 著 後藤哲夫 訳 教文館 [茶 198.7 No]

本書はカナダ・メソジストの1873年以來の日本宣教の記録である。宣教は、甲府教会や静岡教会の設立、東洋英和・山梨英和・静岡英和の創立や関西学院の運営、各地の孤児院設立や矯風運動等の社会事業に及んだ。とりわけ注目されるのは、1882年設立の婦人宣教協会から派遣された多くの婦人宣教師の多方面に亘る活発な活動であり、それが詳述されている。また、宣教師に協力した日本人にも触れ、特に平岩愼保(よしやす)先生のメソジスト教会の土台作りの目覚ましい活躍ぶりが描かれている。先生はその後日本メソジスト教会の要職歴任の後、阿佐ヶ谷の地で1924年(大正13年)阿佐ヶ谷教会を創立された。今年100周年を迎えた私たちにとっても本書の発行は意義深いと思われる。なお本書を訳した後藤哲夫兄は十数年の歳月を費やして漸くこの大著の訳業を完成された。本文に加え30頁近い注や詳細な年表など読者への配慮が行き届いた労作である。(S.S 信友会)



## 「神の民の解放 出エジプト記1～18章による説教」

松本敏之 著 キリスト新聞社 [緑 194 Ma]

本書は、阿佐ヶ谷教会でかつて伝道師をされていた松本敏之牧師(鹿児島加治屋長教会)の2020年1月～2022年6月までに行われた出エジプト記の連続説教集です。約2年半のコロナ禍という特別な期間、またその間に世界で起き、現在も続く戦争や、クレーダーなど社会との関わりと強く結びついた23の連続説教集です。松本先生が米国で学ばれ、ブラジルで触れた「解放の神学」をメインテーマにされたこの著には、阿佐ヶ谷教会の記念祈祷会のことも信仰の原点を伝えることの大切さとして「過越」の章で触られています。出エジプト記の時代と現代を生きる私たちが交差し、聖書の御言葉や物語が、今を生きる私たちの生きる糧であると思わされる説教集です。個人的には、始めの章である「不屈」で、3名の女性たちがいずれも「神を畏れる信仰」があったからこそ、人よりも神に従った箇所が心に残っています。どの方にとっても心に残る箇所がある説教集です。(N.T 地の塩会)



「図書室だより」のバックナンバーはこちらへ → <http://www.asagaya-church.com/tosho.shtml>